

細江カトリック教会だより

初秋号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

時代の転換点に立って

異常な暑さと、繰り返される豪雨被害、コロナの第七波、そして、ウクライナに発し、東アジアにまで波及する大国間の緊張、悩ましい課題に事欠くことのなかった夏がようやく過ぎようとしています。教会も、そして、広島教区も、そんな人間のありのままの現実の中で、福音を生き、人々に真の喜びを伝えようとしています。今年、わたしたちは、特別な意味の秋を迎えます。

一つは、ご存じのとおり、いよいよ来年に迫った広島教区創立100周年記念行事の先駆けとなる開年ミサが9月19日(月)に米子教会で行われることです。100年前と言えば、1923年、首都圏を中心とした関東大震災があって甚大な被害が出た年です。当時大阪司教区に属していた中国5県の教会が、大阪から独立して広島代牧区とされ、その担当がイエズス会西ドイツ管区に委ねられた年です。以来、山口島根地区をはじめ、教区内のほとんどの教会がイエズス会員のもとに運営されてきましたが、現在、会員の減少や高齢化のために、大半の教会は広島教区や他の修道会の手を委ねられるようになったことはご存じのとおりです。「下関カトリック教会 百年の歩み」(1995年)に詳しい歴史が記されていますが、来年発行予定の「教区100年史」によって、苦難に満ちた教区の歩みが一層明らかにされるでしょう。

もう一つは、前任の百瀬神父様の時代に企画・決定された細江教会の建て替え計画です。4年前の着任以来、この大きな課題は頭から離れることはありませんでしたが、様々な障碍にぶつかり、予想以上の年月が経過してしまいました。工事の前提となる天使幼稚園の

仮園舎確保の問題が思いのほか難しく、先日、ようやく外部に仮園舎設置の見通しが立つようになりました。さらに、幼稚園改築のための公的補助を受けるための手続きを済ませ、申請が受理されれば、教会の建て替え計画がいよいよ軌道に乗ることになります。今後早急に、新聖堂建築のための工事日程、設計図、工事期間中の対応について検討をつめて行かねばなりません。おおまかな道筋はできていますが、細部について、ご意見、お知恵を拝借しながら、決定を進めて行きたいと思えます。建設資金の調達については、すでに多くの方のご寄付をいただいておりますが、さらに、皆様の一層のご協力をお願いいたします。

また、細江教会の助任司祭として、また、ベトナムの青年たちの友として、司牧者として尽くされたディン神父様が、第三修練参加のため、8月末に離日されます。代わって、現在防府教会におられるトアン神父様が9月に着任されます。感謝と歓迎の心で、お二人のために祈りましょう。

コロナの終息はまだ先になりそうですが、少しでもお互いを思いやる、あたたかさのある教会共同体の建設のため、力を合わせてまいりましょう

主任司祭 作道 宗三



環境研修会 7/12 (水)

7月12日の午後、作道神父様と信徒代表と他4名の参加で、市内古屋町にある『しものせき環境みらい館』へ社会見学に行きました。

10分間のビデオ講座と実際に資源ごみの分別を、質疑応答を交えながら楽しく体験学習。

その後、収集した資源ごみの選別の様子など見学通路から見ましたが、そこでは私が全く想像もしない光景が目に入り、驚きと反省のみ・・・それは、プラごみの分別作業の様子です。

ベルトコンベアで運ばれてくるゴミの山。その中からセンサー等で感知分別できないものを作業員の方が先に見つけ、取り出す作業を手選別で行っていました。中にはレジ袋にぎっしりと詰め込まれたゴミもあり、袋の中の取り出し作業は二重手間にしか見えませんでした。しかもその作業は、悪臭と稼働中は室内温度が40度前後の中での作業（天井よりのエアコンが入って）。仕事とはいえ本当に頭の下がる思いと感謝の気持ちでいっぱいです。

環境汚染問題は“みんなの命を守るため”の大事な対策の一つ。短時間の見学でしたが、私にとっては貴重な体験でした。これからは、食品ロスやゴミの減量に努め、始末の際には今日のことを思い出しながら、自分なりにきれいな住みよい環境づくりに努めたいと思います。また、祈りと交わりの場である教会は、皆でいつも美しく居心地の良い場として保ち続けたいものですね。教会の周りの花は元気と癒しをもらいます。

M.Y

*環境未来館の研修



*ゴミ分別は地球環境にとっても大事なことです。これから未来の自然を守るためにも見て聞いて体験してください。



新しい「ミサの式次第」変更箇所の説明 7/23

2022年11月27日(待降節第1主日)から実施される新しい「ミサ式次第」について、白浜司教さまから指導がありました。

司教さまは、「ミサの真の司式者はイエスさまです。」と柔らかい口調ではっきりとお話されました。それが一番大事なことだと私は感じましたが、受講された方はいかがでしたか。説明をお聴きしても、まだまだ心身に浸透するには、時間がかかります。これから私たちの教会で、少しずつ研修していくこととなりますので、変更箇所の冊子をお手元において準備していただきたいと思います。事務室に2種類の冊子(110円~440円)を用意していますので、ご利用ください。

近藤

長府カトリック教会の聖堂にて



堅信式と聖体奉仕者任命式

7月24日(日)司教公式訪問にて



* 奉仕者の任命式/挨拶

◇ 最近、うつむきがちな人生に背筋がピン!と、なるような重要任務が・・・。聖体奉仕者だ! 2年後の任務完了に向かって始動の夏。 よろしくお祈りします。

白濱 やよい

◇ 今回で二度目の奉仕となりますが、信徒の皆様へ安心感をもつていただけるよう心身共に健康であるよう努めたいと思います。



福永 典子

◇ 聖体奉仕者として司教様に任命していただきました。ミサの中で司教様は「今、抱いている神さまのイメージを信仰生活の上で大切にしてください。」と言われました。神さまは高く遠い所にいらっしゃる方ではなく、近くにいて私たちの切なる願いを聞いてくださる方であることを信じたいと思いました。

準備の勉強会でディン神父様が子どもの頃3時半に起き、30分前から朝の祈り、4時

半のミサに毎日与っていたという体験談を話してくださいました。ベトナムの青年たちが素直に神さまを求めて教会に来ている姿が、理解できたような気がしました。

コロナ禍にあって「キリストの御からだ」と声を出して言えませんが、共に分かち合える喜びをかみしめながらご聖体を配りたいと思います。準備に携わってくださった作道神父様、ありがとうございました。皆さま宜しくお祈り致します。

林 恵子



* 前列中央、受堅者と代母のお二人と聖体奉仕者の方々です。

皆さま、よろしくお祈りします



平和の集い 8/7 (唐戸)

サビエル上陸記念碑前



世界は、コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵攻という二重の苦しみのなかにあります。広島、長崎、福島の悲劇を繰り返さないという多くの人々の願いに反して原発への攻撃、核戦争の恐怖が今そこにあります。そのなかで2年ぶりに平和の祈りの集いが参加者の人数制限、式の簡略化のもと開かれました。日本人、ベトナム人の信者を中心に40名が参加、長府教会百瀬神父様による灌水、献香、聖書朗読「使徒パウロのローマの信徒への手紙8章19節～24節」、説教、彦島・細江・長府各教会による平和のための共同祈願、そして参加者全員で平和の祈りを唱えました。

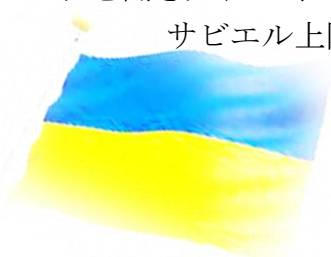
また、同日の各教会のミサでも、この共同祈願・平和の祈りが唱えられました。

百瀬神父様の言葉（抄）「神から与えられたいのちを守ることを、何よりも大切にし、そのために平和の子らの連帯が求められます。フランシスコ・ザビエルの上陸記念碑の前で、私たちは平和を呼びかける人々の歴史に参加するのです。

『あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている』（ヨハネ16・23）。

キリストは死の力に打ち勝って、私たちに永遠のいのちを獲得してくださったのです。これがキリスト者の信仰です。栄光の主が再びこられるまで、私たちはこのいのちを信じて待つ。世界の状況がどれほど絶望的にみえても、この信仰を揺るがしてはなりません。平和を祈り、声に出すことを怠ってはなりません。平和の子らとして、世の人々に和解と平和を呼びかけることをやめてはなりません。ここに集う私たちは、下関のカトリック教会を代表して、平和を求める世の人々と連帯して、世界の平和、ウクライナの平和への願いを体で表し、声をあげて祈りましょう。歴史を導く神がこれを聞き入れてくださるように」

ザビエル上陸記念碑管理委員会
三井 正憲



地区だより VII

離島の教会

4年前、火山の三原山で有名な伊豆大島へ行った。東京の竹芝桟橋を23時に出港して翌日朝5時に島に着き、そこから歩いて10分程のところに木造平屋建ての教会があった。東京教区の資料によれば、信徒が寄贈した土地に1967年に建てられ、2019年末の信徒数は28人。

毎月第4日曜の10時からミサがあり、司祭は東京から交代で行っているとのことである。福岡教区のカテドラル大名町教会には、博多湾の能古島に巡回教会がある。司祭は、車で20分の港から車ごとフェリーに10分乗り、さらに港から10分程の教会へ毎週土曜18時からのミサに行く。与る信徒は、10人程度。

マルコ福音書16章15節には「全世界に行き、すべての者に福音を宣べ伝えなさい」とある。どんなに遠くても、どんなにミサに与る信徒が少なくても、キリストの教えを忠実に守る教会の姿を見ることができる。

安岡地区 一信徒

祈りとともに

*ウクライナで起きた戦争や世界各地の紛争に巻き込まれ、いつまで続くか分からない耐え難い苦痛と苦難と不安の中にいる人々が、もとの平穏な日常生活に戻れますように…

神よ、私たちのこの思い この切なる願いを聞き入れてください。今、危機に直面している人々をお救いください。

*今年の夏は激暑続きで、電力不足に拍車がかかり、またロシアの戦争で各国が電力不足に陥って困っている。原子力発電の再稼働が始まる…大丈夫だろうか。それに代わる電力は、地熱・風・波・太陽と自然に優しい電力に力を注いでいただきたい。

*毎年8月に長府教会で合同慰霊祭が行われていましたが、コロナ禍の影響でできませんでした。それぞれの教会で8/13(土)に慰霊祭が行われました。

亡くなられた方々に思いを馳せ、新しい出発を祈りました。